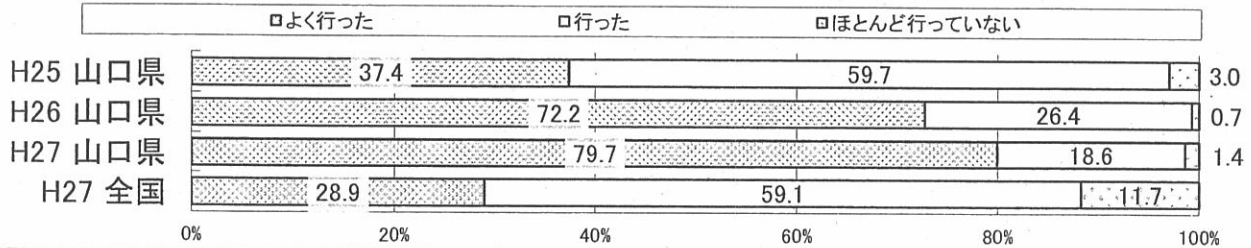


③ 学校質問紙

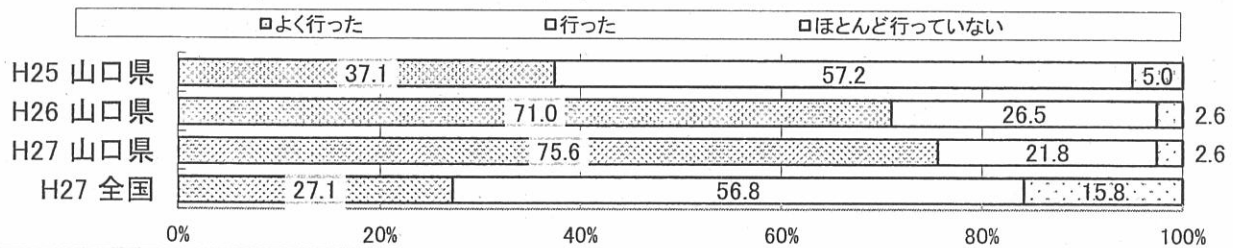
ア 調査結果の公表・説明

- 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を、一部の極小規模校と総合支援学校を除き、全ての学校が行っている。「よく行った」と回答する学校の割合は、年々増加しており、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、学校・地域の実情に応じて、様々な方法により情報を共有する必要がある。

【小学校】 52 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を行った



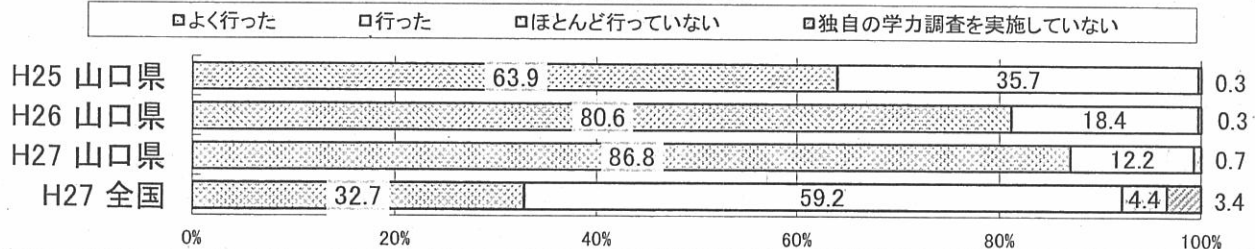
【中学校】 52 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を行った



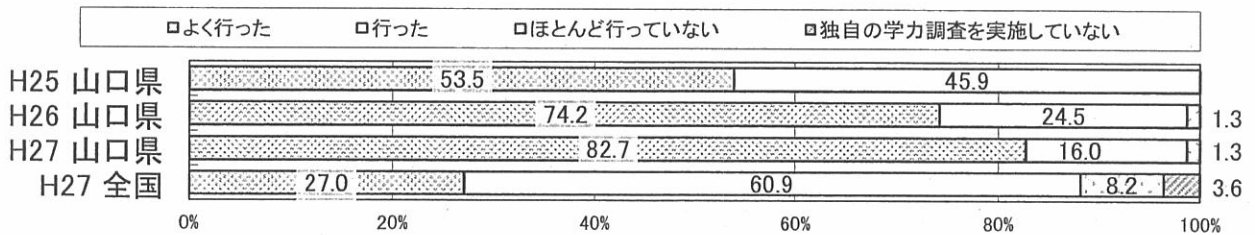
イ 学力調査と県独自調査の結果を合わせた指導

- 全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の結果を併せて分析し、指導の改善や指導計画への反映を行った学校の割合は年々増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 肯定的に回答した学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向があり、今後も年2回の検証改善サイクルを活用して取組の充実を図っていく必要がある。

【小学校】 54 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った



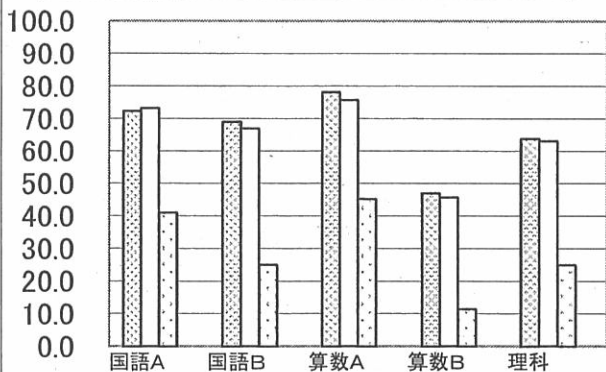
【中学校】 54 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った



[教科の正答率との関係]

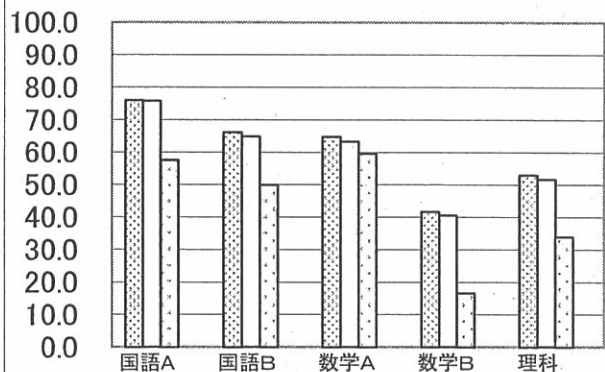
【小学校】 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った

- よく行っている
- どちらかといえば、行っている
- ほとんど行っていない
- 独自の学力調査を実施していない



【中学校】 全国学力・学習状況調査の自校の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画の反映を行った

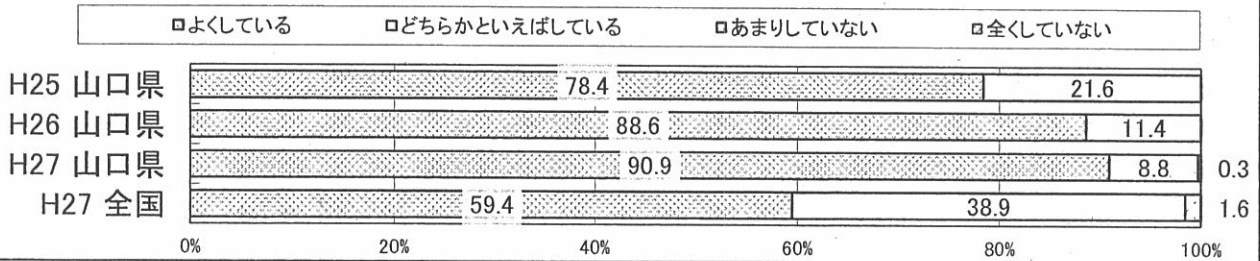
- よく行っている
- どちらかといえば、行っている
- ほとんど行っていない
- 独自の学力調査を実施していない



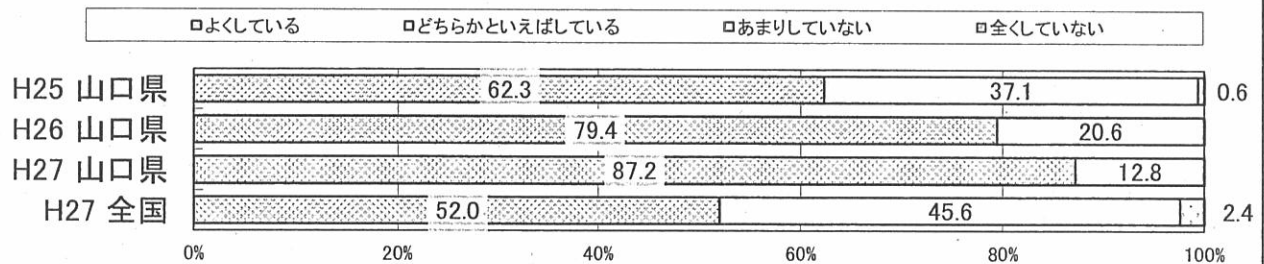
ウ 学力状況についての教員の共通理解

- 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間でよく共有している学校の割合は増加しており、全国と比べても高い。
- ☞ 今後も、学力向上に関する学校の組織的な取組が継続的に行われることが必要である。

【小学校】110 学校全体の学力傾向や課題について、全職員の間で共有している



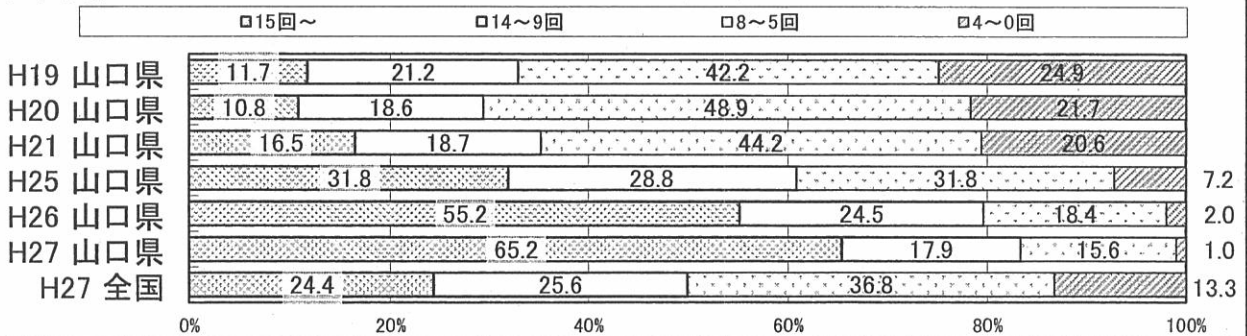
【中学校】108 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している



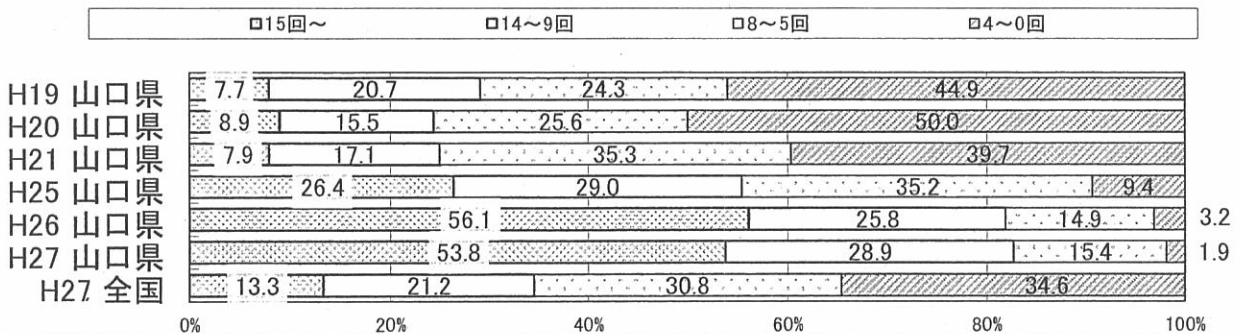
エ 校内研修の実施

- 授業研究を伴う校内研修の年間実施回数は、全国と比べて多く、調査開始期と比較しても増加している。
- ☞ 今後も、学力向上推進リーダー・推進教員を効果的に活用するなど、校内研修が活性化され、日常的な授業改善が図られることが必要である。

【小学校】103 授業研究を伴う校内研修の回数



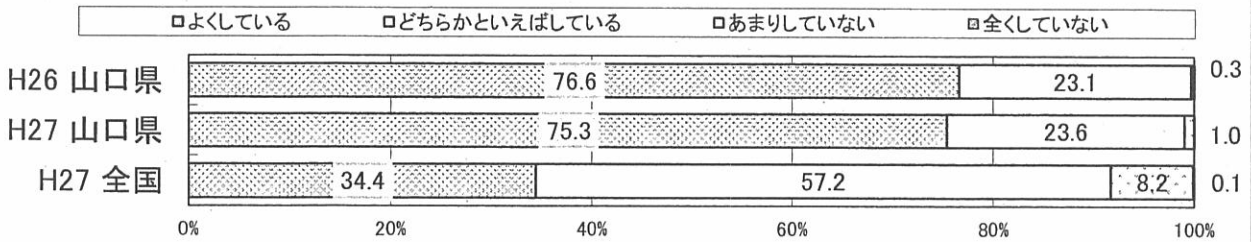
【中学校】101 授業研究を伴う校内研修の回数



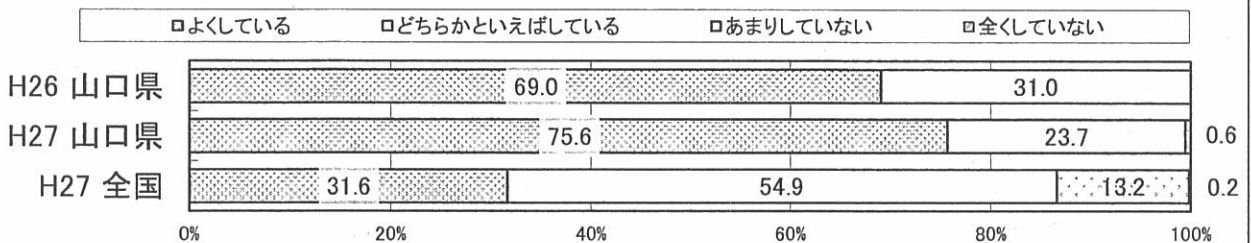
オ 言語活動についての取組

- 言語活動について、国語科だけではなく、各教科・領域を通じて、学校全体として取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて高く、特に中学校で「よくしている」と答えている学校の割合が増加している。
- ☞ 今後も、言語活動の充実を校内研修や授業改善の視点の一つとして取り組むことが必要である。

【小学校】 109 言語活動について、国語科だけでなく各教科・領域を通じて学校全体として取り組んでいる



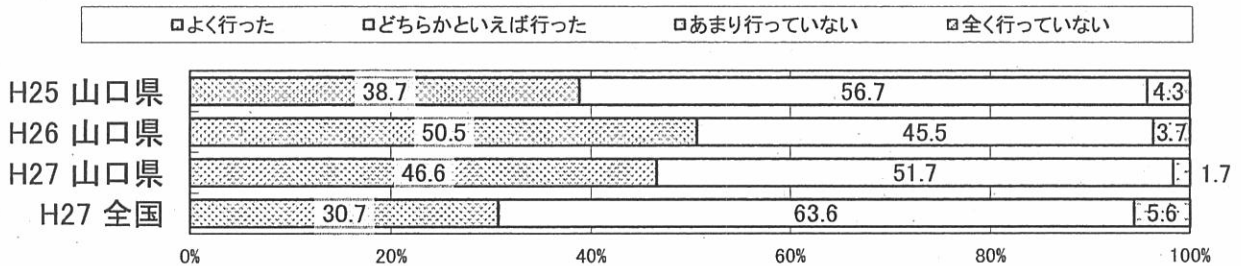
【中学校】 107 言語活動について、国語科だけでなく各教科・領域を通じて学校全体として取り組んでいる



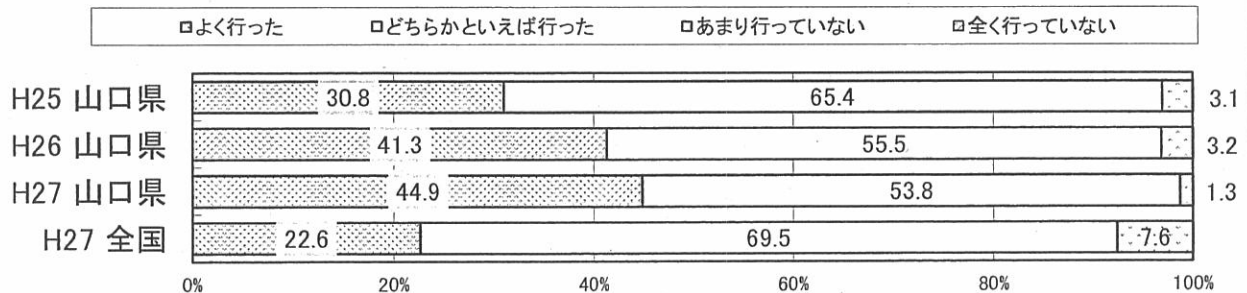
カ 思考を深める指導

- 児童生徒に対して、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした学校の割合は、全国と比べて高く、特に中学校においては、「よく行った」と答える割合が増加している。
- ☞ 授業改善の意識が高まってきていることが考えられ、今後も指導の工夫改善に取り組むことが必要である。

【小学校】 32 児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行った

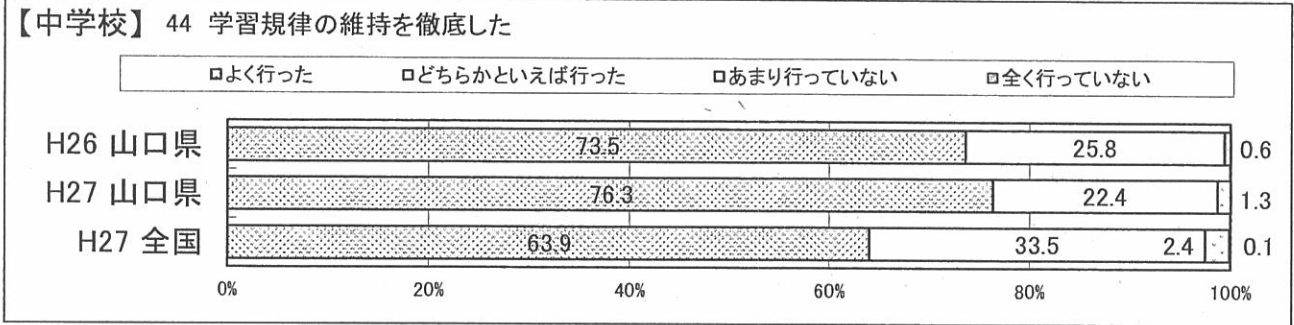
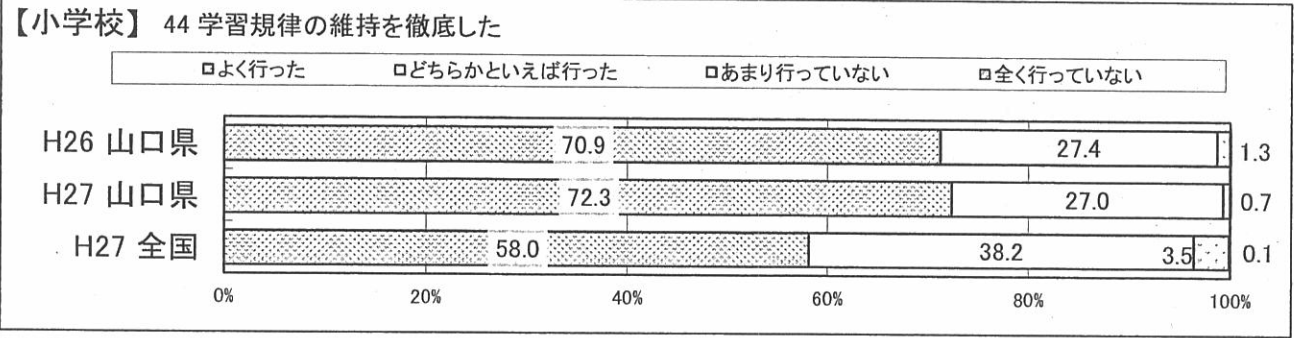


【中学校】 32 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行った



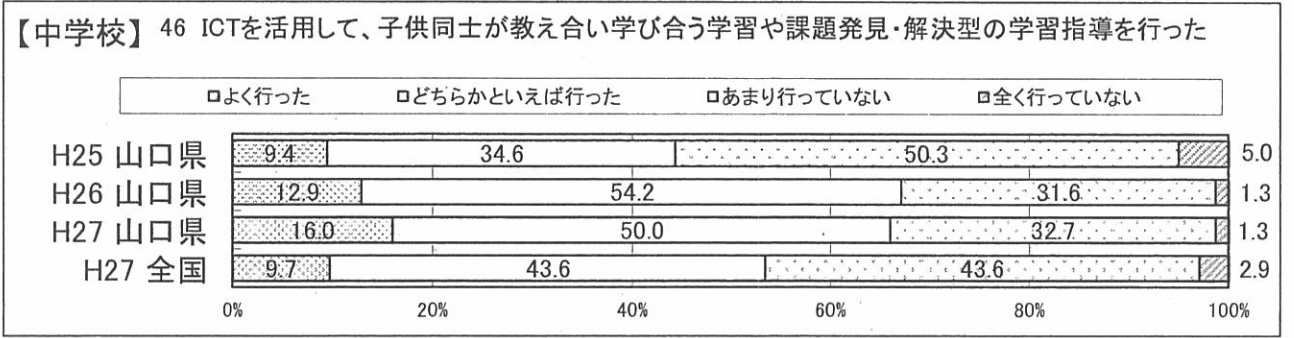
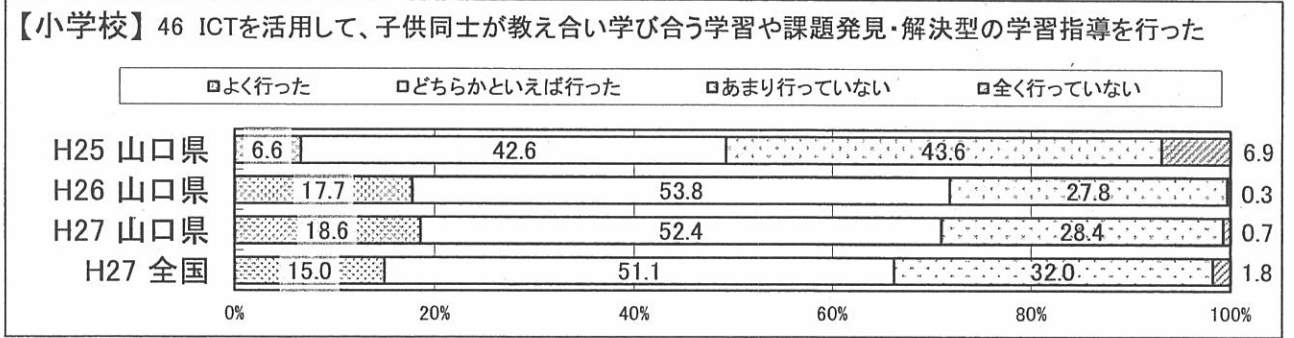
キ 学習規律の維持

○ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底した学校の割合は、全国と比べて高い。  
 ☞ 今後も、落ち着いた学習環境づくりに努める必要がある。



ク ICTの活用

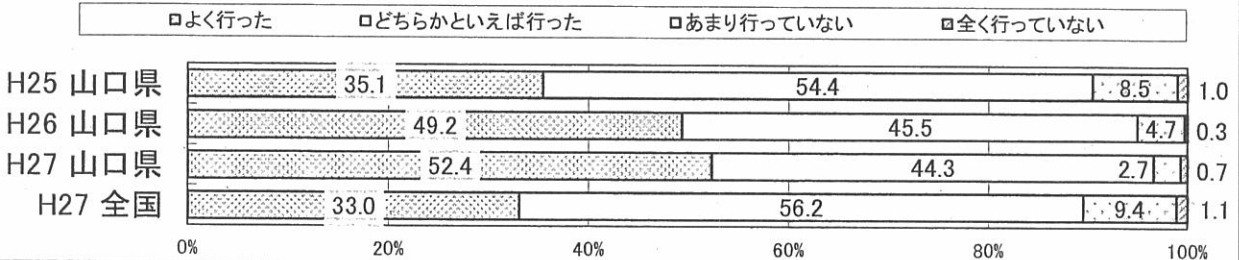
○ ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導をよく行った学校の割合は、全国と比べて高い。  
 ☞ 今後も、授業の工夫改善の一方法として積極的に取り組む必要がある。



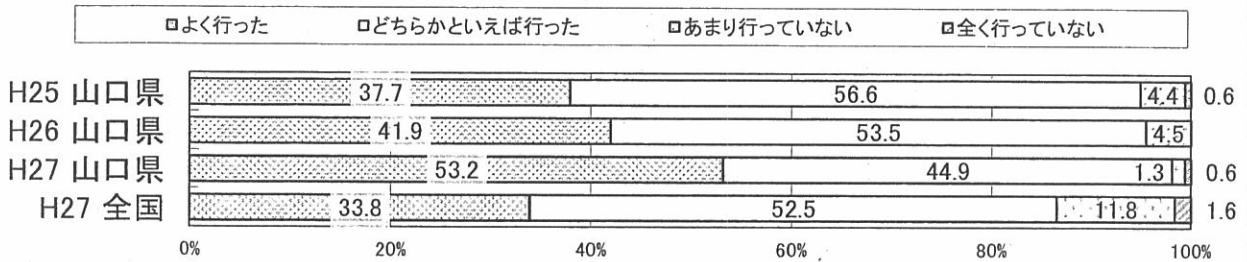
ケ 児童・生徒の特性に応じた指導

- 特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、児童生徒一人ひとりを十分理解し、それぞれの特性に応じた指導の工夫に努めていく必要がある。

【小学校】 79 特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行った



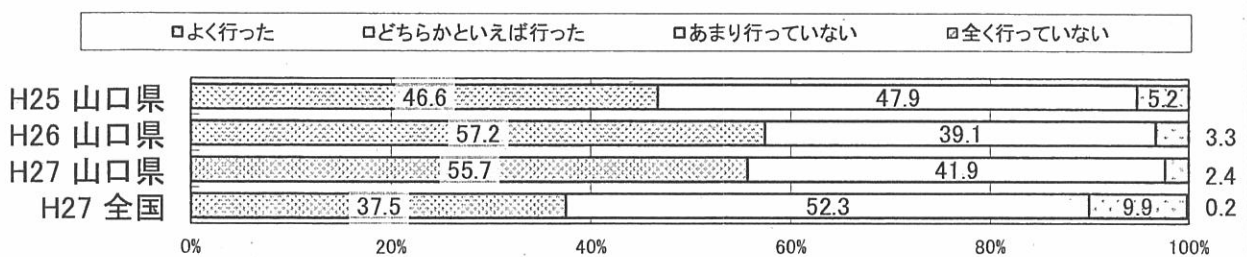
【中学校】 78 特別支援教育について理解し、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った



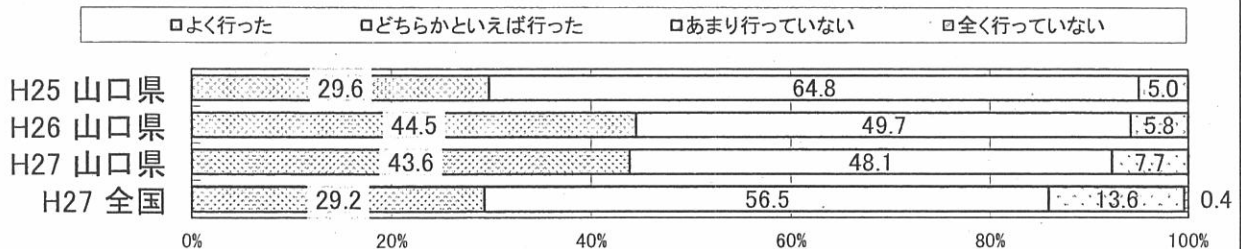
コ 家庭学習の定着に向けた取組

- 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、家庭と積極的な情報共有を行い、連携を図っていく必要がある。

【小学校】 96 家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた



【中学校】 94 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体的な例を挙げながら教えた

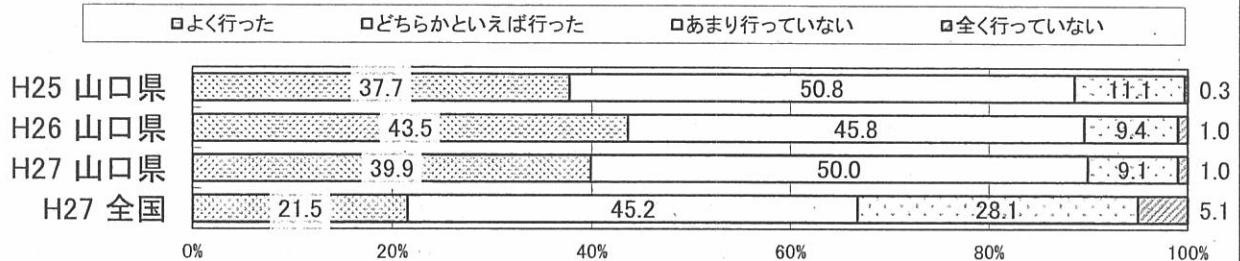


サ 小中連携

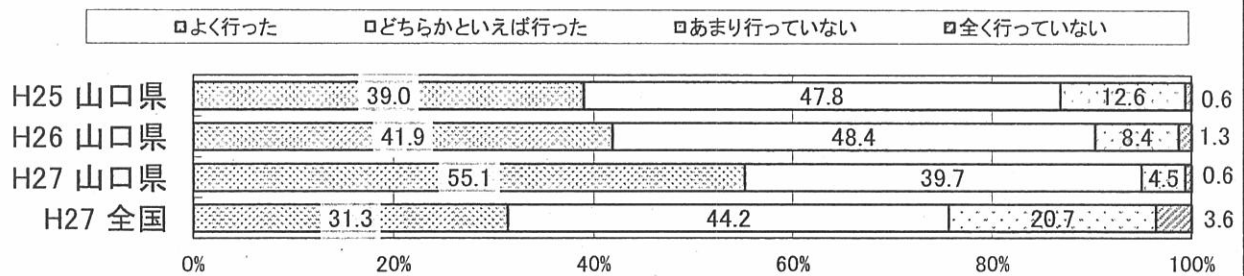
○ 教科の指導内容や指導方法について近隣の学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 今後も、小中連携カリキュラムの活用などにより、教科の指導等に関する連携を強めていく必要がある。

【小学校】 80 教科の指導内容や指導方法について、近隣の中学校と連携を行っている



【中学校】 79 教科の指導内容や指導方法について、近隣の小学校と連携を行っている

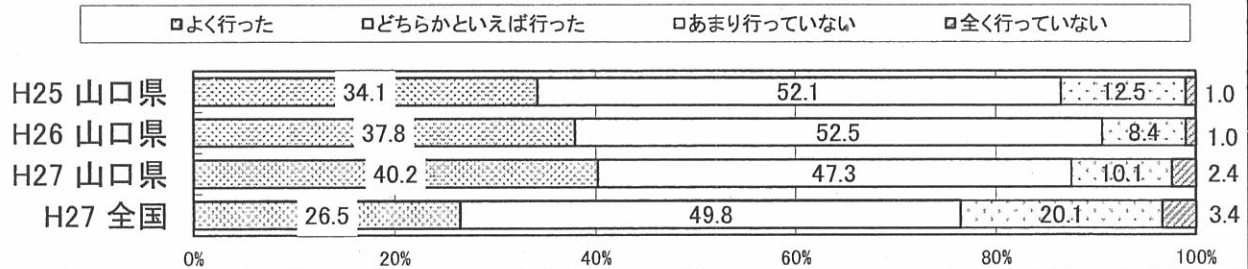


シ 地域人材の授業での活用

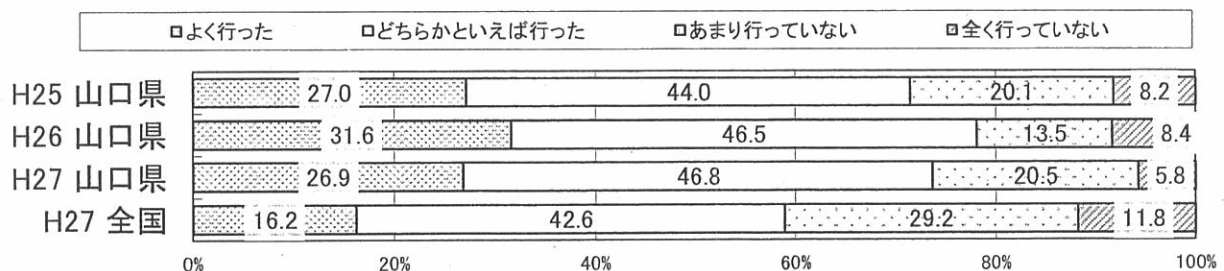
○ 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、様々な分野における地域人材の発掘と効果的な活用を図っていく必要がある。

【小学校】 81 地域人材を外部講師として招聘した授業を行った



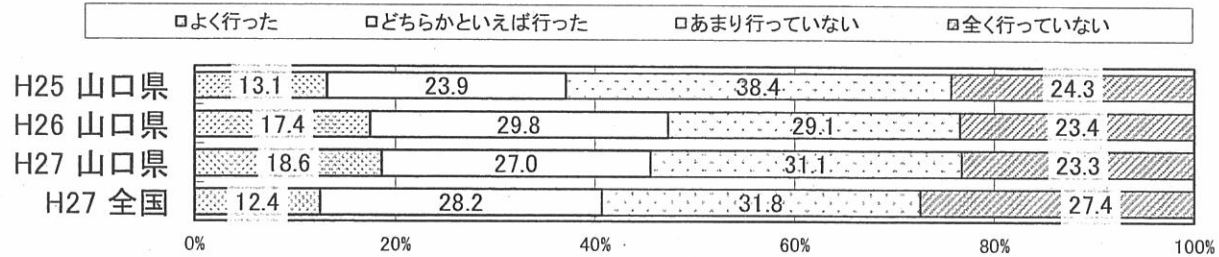
【中学校】 80 地域人材を外部講師として招聘した授業を行った



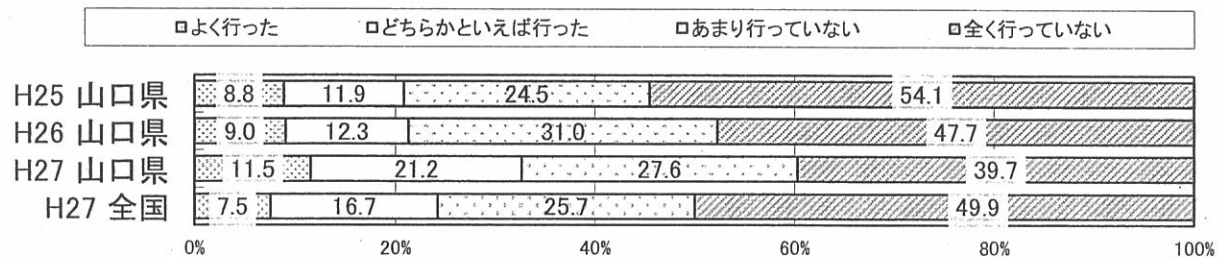
ス ボランティアによる授業サポート

- ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、地域人材の効果的な活用を図っていく必要がある。

【小学校】 82 ボランティア等による授業サポートを行った



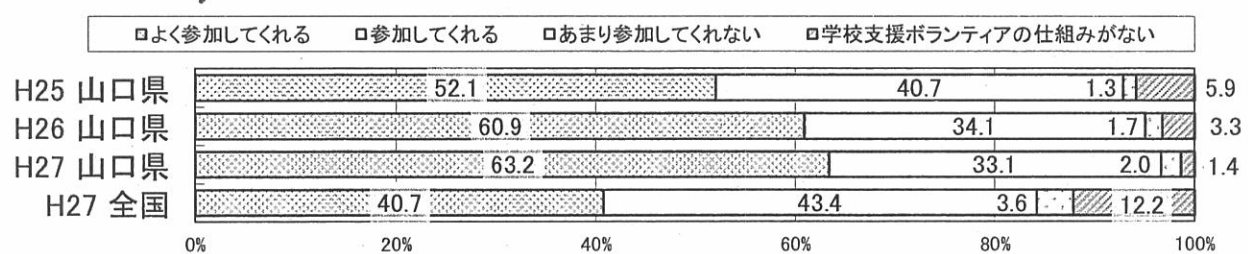
【中学校】 81 ボランティア等による授業サポートを行った



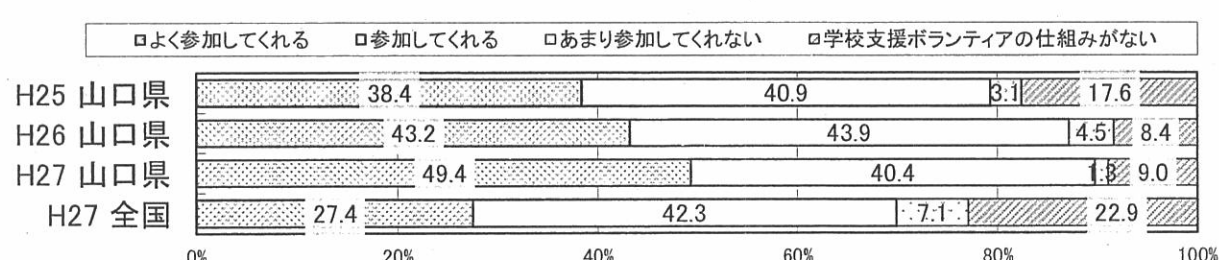
セ 保護者や地域の人による教育活動への参加

- 学校支援ボランティアの仕組み等により、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加している学校の割合は年々増加しており、全国と比べて高い。
- ☞ 今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用する等により、保護者や地域人材の教育活動への積極的な参加を呼びかける等の取組を行っていく必要がある。

【小学校】 87 学校ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校の教育活動や様々な活動に参加してくれる



【中学校】 85 学校ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校の教育活動や様々な活動に参加してくれる



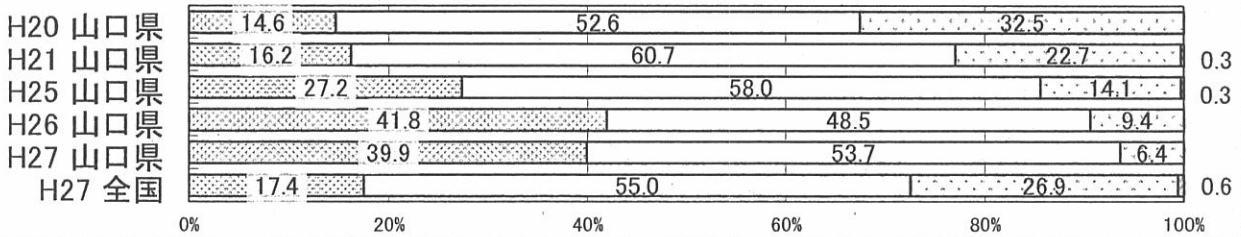


ソ 将来の夢

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は、全国と比べて高いが、「よく行った」と回答する割合が、小学校・中学校ともに昨年度より減少している。
- ☞ 今後、各学校で実施している「職場見学・職場体験」や「1/2成人式・立志式」等の取組を中心として、キャリア教育の充実を一層図っていく必要がある。

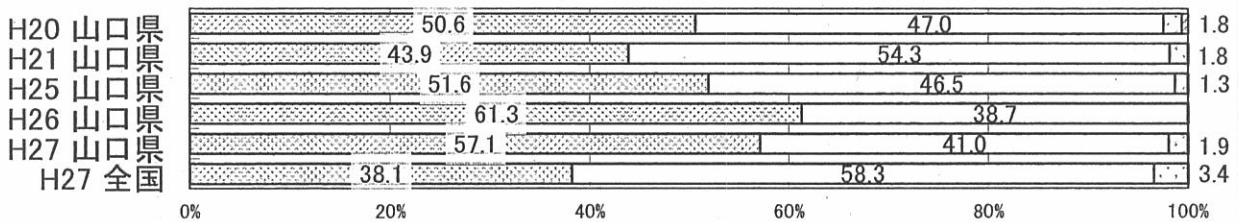
【小学校】 41 児童に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない



【中学校】 41 生徒に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

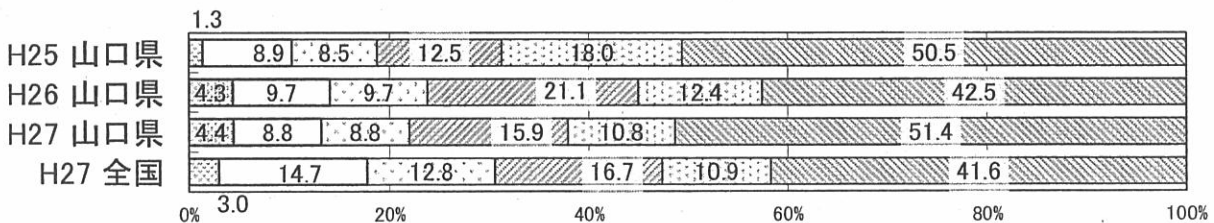


タ 放課後の補充学習

- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した小学校の割合は、全国と比べて低い。
- ☞ 放課後に限らず、各学校の実情に応じて、補充学習の充実を図っていく必要がある。

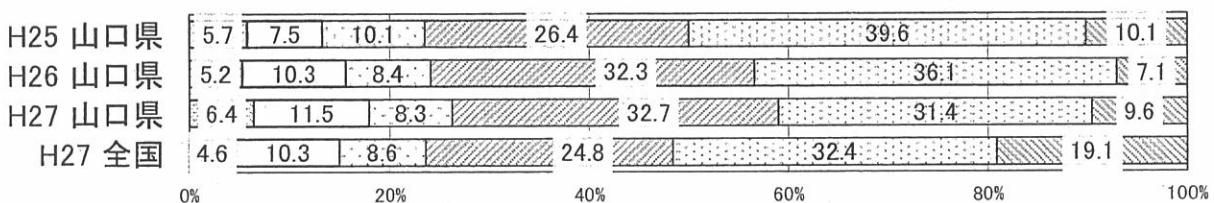
【小学校】 26 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した

□週4回～ □週2,3回 □週1回 □月に数回 □年に数回 □行っていない



【中学校】 26 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した

□週4回～ □週2,3回 □週1回 □月に数回 □年に数回 □行っていない

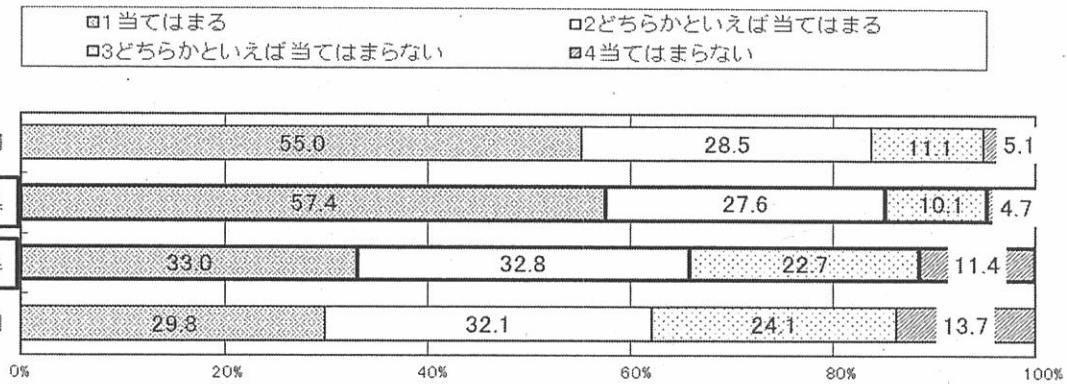


④ 理科の指導に関すること  
ア 理科への興味関心と理解

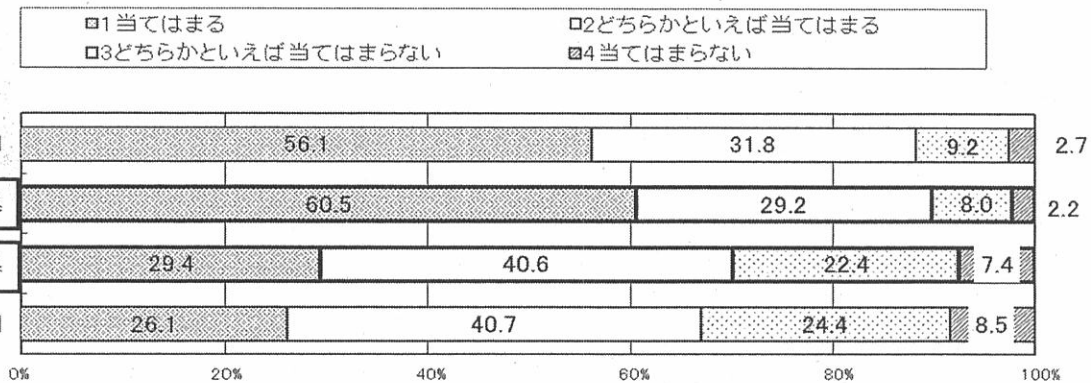
○ 「理科の勉強が好きだ」「理科の授業内容がよく分かる」に対して肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小学校から中学校へ上がると20%近く減少している。

☞ 特に、「当てはまる」と回答する児童生徒は、小学校で6割前後、中学校では3割前後であり、児童生徒の興味関心を高める指導の工夫改善に努める必要がある。

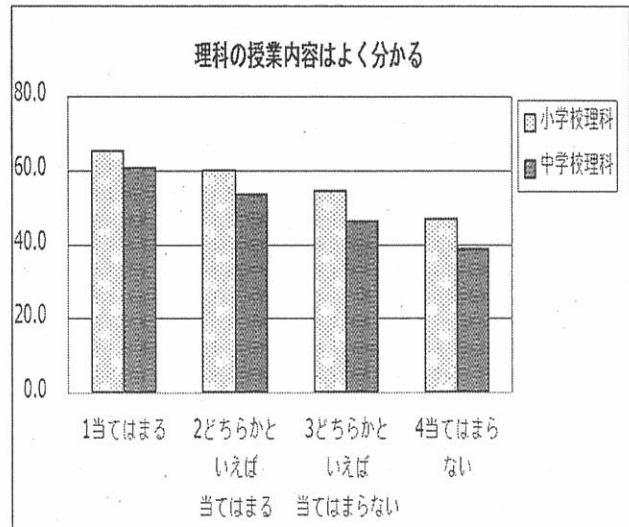
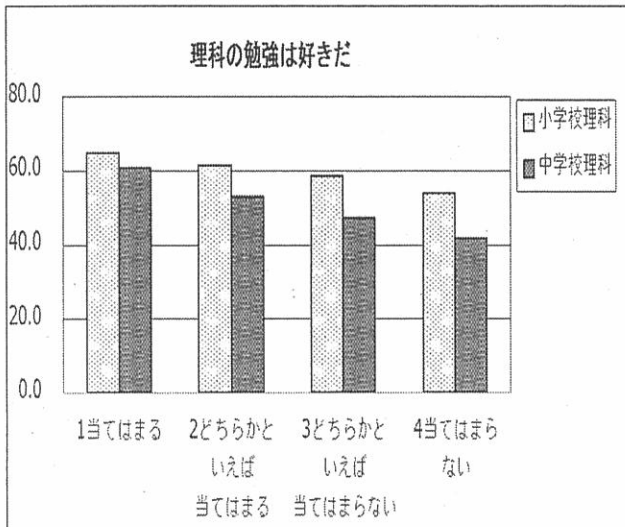
【児童生徒】 (69) 理科の勉強は好きだ



【児童生徒】 (71) 理科の授業の内容はよく分かる



【児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係】

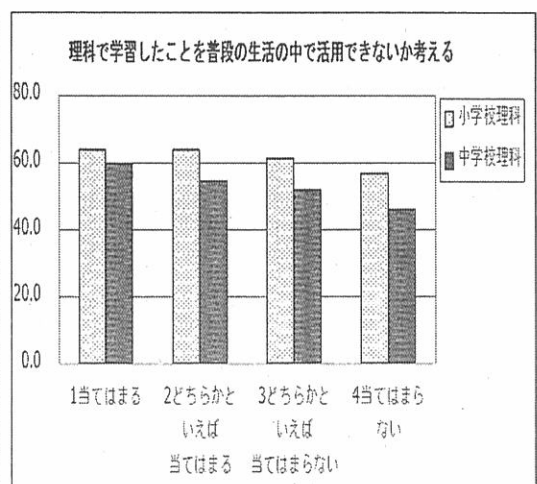
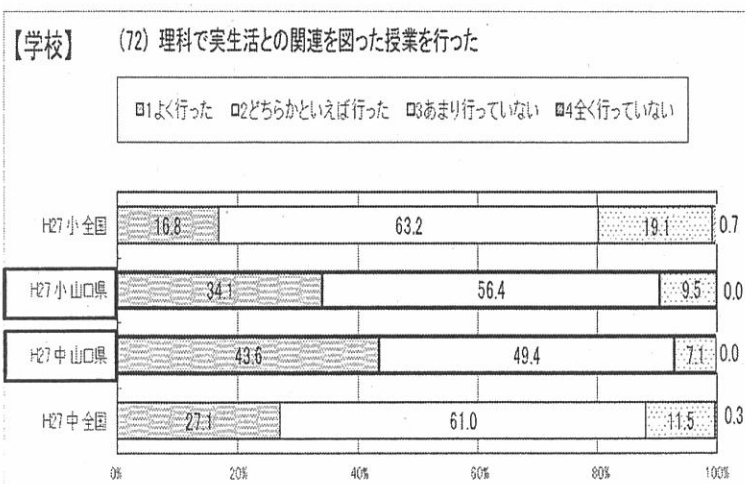
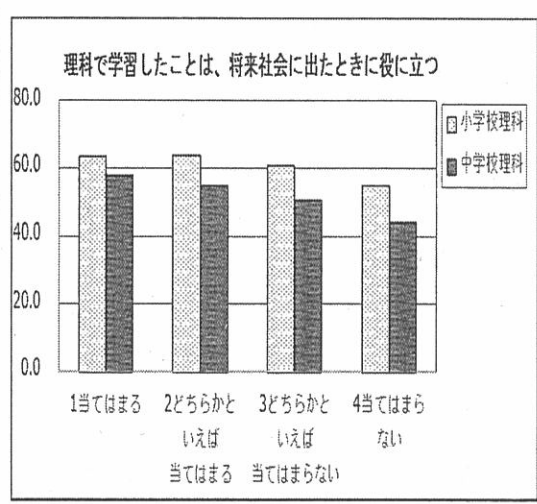
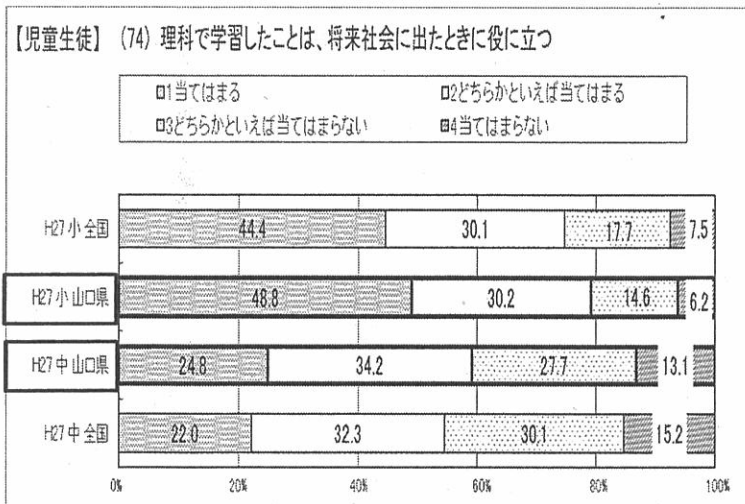
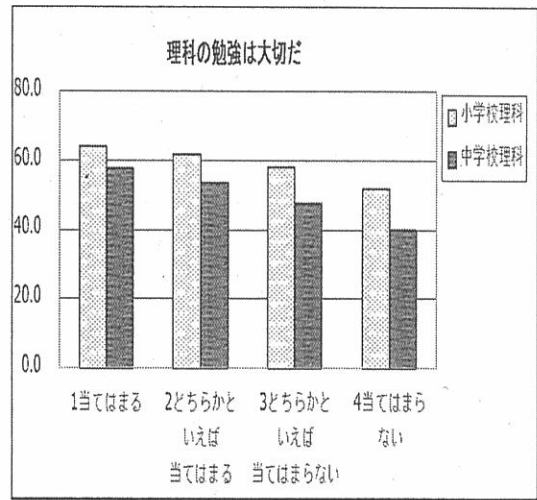
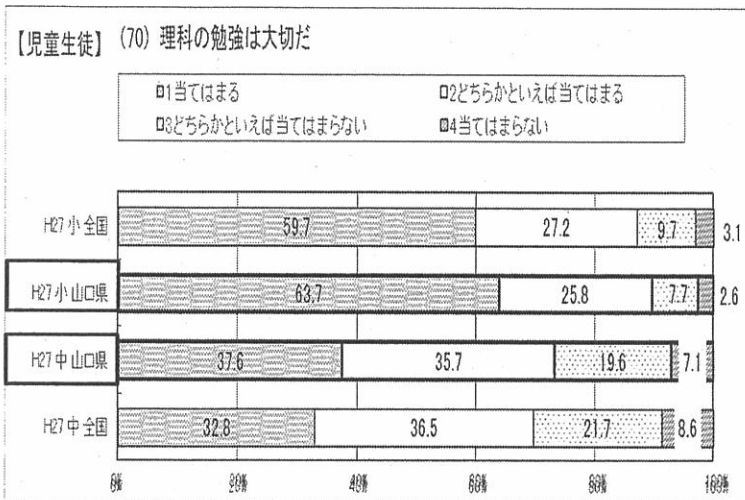


## イ 理科を学ぶ意義

○ 「理科の勉強は大切だ」「将来社会へ出たときに役に立つ」など、理科の有用性を感じている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。

☞ 実生活における事象と学習内容を関連させる、身近な素材を活用するなど、理科と生活とのつながりや、理科を学ぶ意義を感じさせる指導の工夫を図っていくことが必要である。

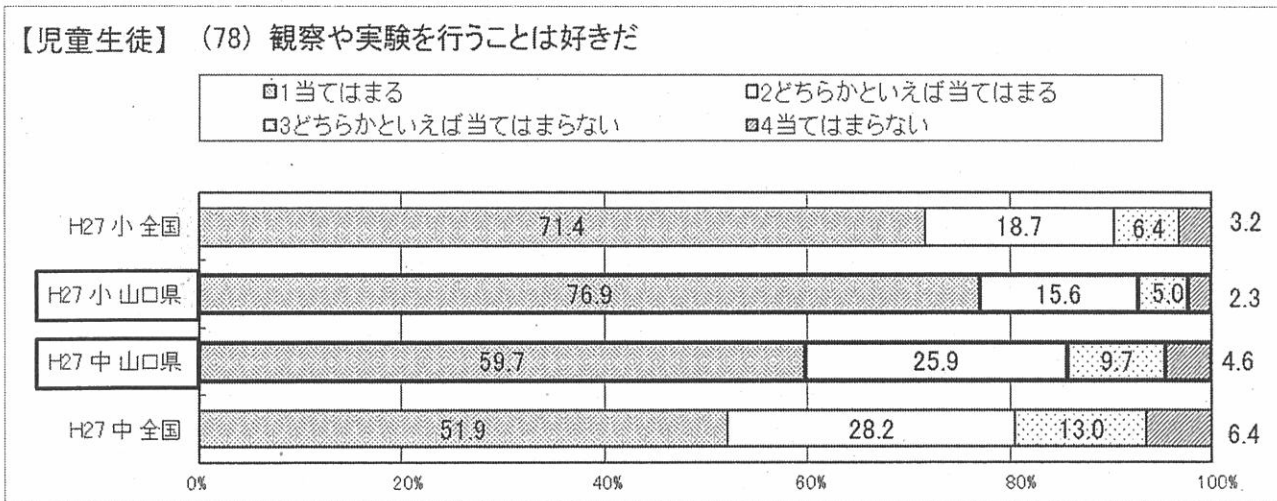
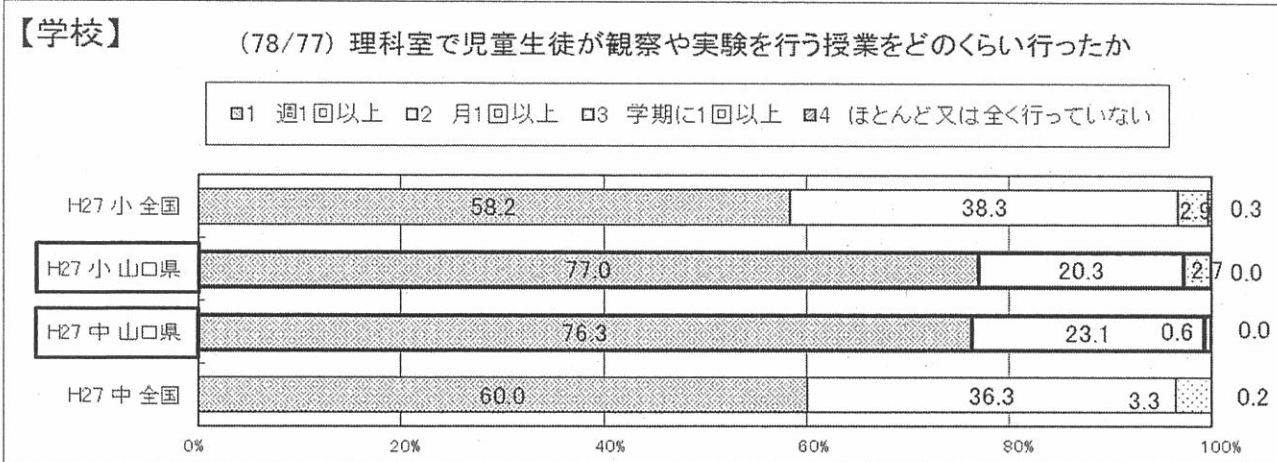
[児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係]



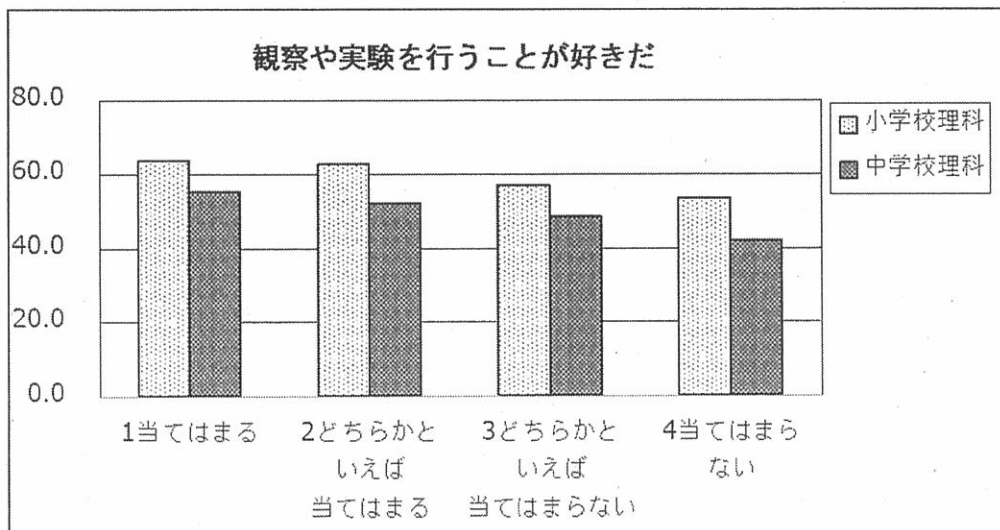
## ウ 観察や実験の実施

○ 理科室での観察や実験をよく行った学校の割合は、小学校・中学校とも全国と比べて高く、児童生徒の観察や実験に対する意欲も高い。

☞ 観察や実験が好きだと回答した児童生徒は正答率が高い傾向が見られ、今後も観察や実験を十分取り入れた授業を実施し、児童生徒の関心・意欲を高めていくことが必要である。



### [児童生徒質問紙の回答と理科の正答率との関係]

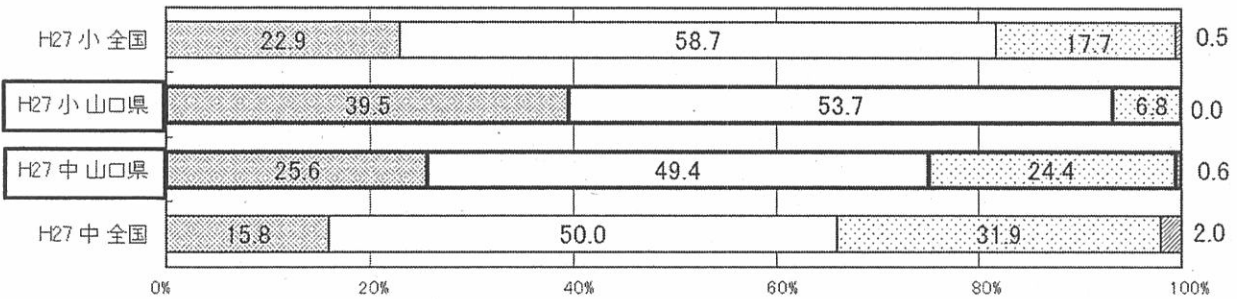


## エ 児童生徒の仮説をもとにした観察や実験の計画

- 児童生徒の仮説をもとに観察や実験の計画を立てさせる指導を行った学校の割合は、小学校・中学校とも全国と比べて高く、同様の設問に肯定的な回答をした児童生徒は、平均正答率が高い傾向が見られる。
- ☞ 今後も、児童生徒が主体的に考え取り組む学習を、積極的に仕組むことが必要である。

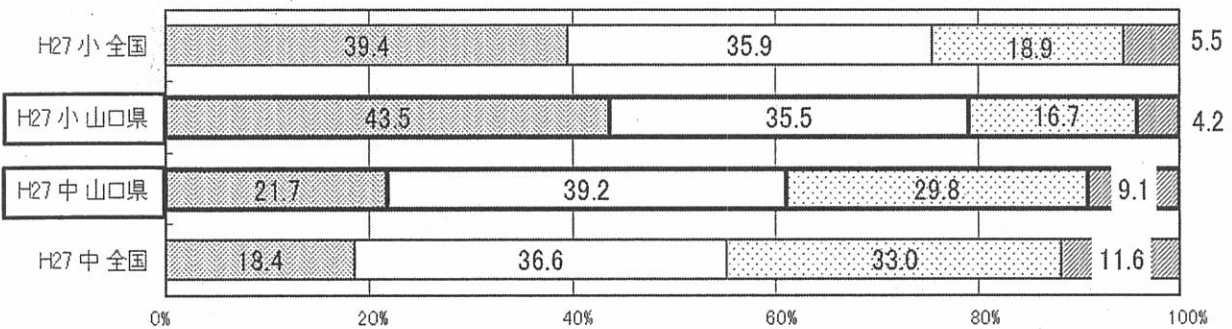
### 【学校】 (74/73) 児童生徒の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てさせる指導を行った

■1よく行った □2どちらかといえば行った □3あまり行っていない ■4全く行っていない

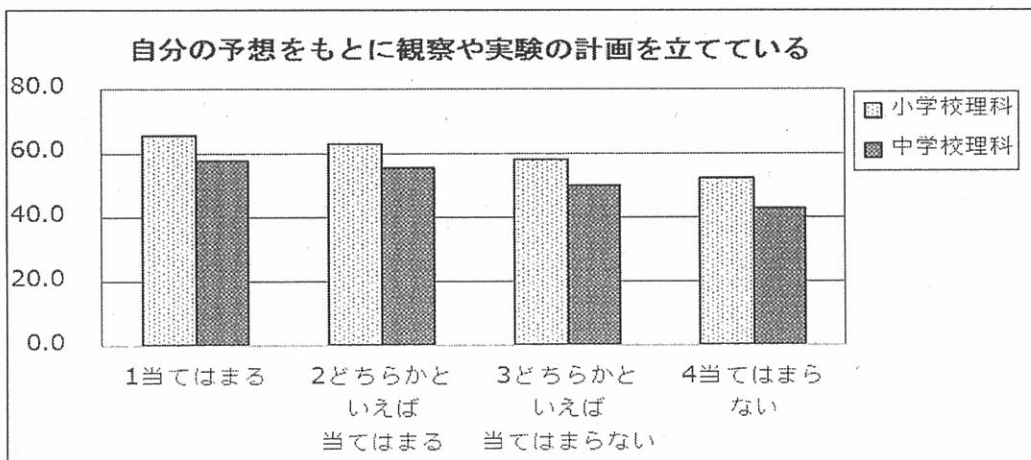


### 【児童生徒】 (79) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている

■1当てはまる □2どちらかといえば当てはまる  
□3どちらかといえば当てはまらない ■4当てはまらない



### 《児童生徒質問紙の回答と正答率との関係》



## オ 観察や実験の考察や発表

○ 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返って考えたり、結果からどのようなことが分かったか考えたりする児童生徒や、自分の考えや考察を説明したり発表したりする児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。

☞ 今後は、観察や実験の結果をもとに各自の考えをまとめさせる指導や、言語活動と関連付けた指導の充実が必要である。

[児童生徒質問紙の回答と正答率との関係]

